

環境活動

長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」

「環境共有価値の拡大」から「SHARP Eco Vision 2050」へ

シャープは、2013年度に設定した環境方針「環境共有価値の拡大」のもと、省エネ製品・創エネ製品による「温室効果ガス削減貢献量」がサプライチェーン全体の事業活動に伴う「温室効果ガス排出量」を常に上回ることを目標に環境取り組みを進めてきました。

一方、気候変動や資源枯渇、海洋プラスチックなど、環境問題は地球規模の社会課題と認識され、「持続可能な開発目標（SDGs）」や温室効果ガス削減の枠組み「パリ協定※」が発効されるなど、社会課題解決に向けた動きがグローバルで加速しています。

長期環境目標

シャープは「SHARP Eco Vision 2050」の実現に向け、3つの分野それぞれに対し、以下のように長期的なゴールを定めることで「消費するエネルギーを上回るクリーンエネルギーの創出」及び「企業活動で生じる地球への環境負荷の最小化」に取り組みます。

気候変動



シャープはこれまで、自らが消費するエネルギーの削減をはじめ、製品の省エネルギー化を進めることで、家庭や社会で消費されるエネルギーの削減に努めてきました。

また、創業者・早川徳次の「当社が出しているものは、全て電気を使うものばかり。今後、会社が大きくなればなるほど電気を使うことになるので、(電気を)作ることもしよう」という考えで太陽電池の開発に着手し、半世紀以上にわたり太陽光発電の普及にも努めてきました。

**電気を使う製品を作る会社だからこそ、
電気の使用で生じる環境負荷に責任を持たなければならない。**

シャープは「消費エネルギーの削減」及び「クリーンエネルギーの創出」により一層努め、脱炭素社会を実現すべく、2050年に向けて以下の2つの目標に挑戦します。

目標

- ・サプライチェーン全体で消費するエネルギーを上回るクリーンエネルギーを創出
- ・自社活動のCO₂排出量をネットゼロへ

資源循環



シャープはこれまで、新しい製品を生み出すことで世の中に多様な価値を提供してきた一方で、多くの限りある資源を使用してきました。

**限りある資源の中で、全てのステークホルダーに
多様な価値をいつまでも提供できるように。**

シャープは「資源の有効活用」により一層努め、「最小限の資源」で「最大限の価値」を継続的に提供し、循環型社会を実現すべく、2050年に向けて以下の2つの目標に挑戦します。

目標

- ・製品への新規採掘資源※の使用をゼロへ
- ・自社活動による廃棄物の最終処分をゼロへ

※ リサイクルをするにあたり環境配慮面で合理性のないものを除く。

こうした中、シャープは、これまでの環境方針を刷新し2050年に向けた長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」を策定しました。これは、世界中に「クリーンなエネルギー」を提供するとともに、企業活動で発生する温室効果ガスや廃棄物などによる「地球への環境負荷」の最小化を図ることで「持続可能な地球環境」の実現に挑戦するものです。

シャープは、技術の開発、製品やサービスの提供など企業活動を通じた環境保全に加え、ステークホルダーの皆様との連携を深めることで、社会課題の解決と持続的な企業価値の向上に取り組みます。

※ 2015年にパリで開かれた第21回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で合意された地球温暖化防止の国際的な枠組み。

安全・安心



シャープの工場では製品製造工程において様々な化学物質を使用し、また、製品には様々な化学物質が含有されています。化学物質には人体や地球環境・生態系に悪影響を及ぼすものもあり、その取り扱いには徹底した管理が必要です。

**シャープの企業活動が、人の健康や地球環境・
生態系に悪影響を及ぼすことがあってはならない。**

シャープは現行の国際基準はもとより将来を見据えた自社基準を設定し、これらに準じた化学物質の徹底管理を行い、「化学物質が人の健康や地球環境・生態系に及ぼす影響」を排除します。

目標

- ・化学物質の適正管理で人の健康や地球環境・生態系を守る

環境活動

気象変動と事業の関わり

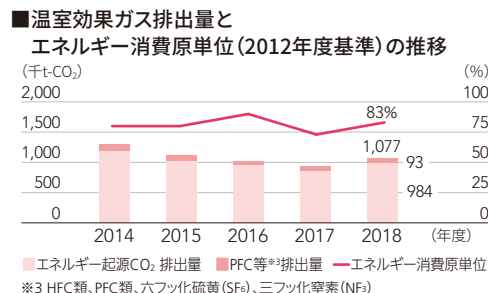
シャープは、気候変動に関する「リスク」と「機会」を重要な経営課題と認識しています。リスクと機会を検討するためのガバナンスとして、シャープSER委員会※1を設置し、中長期にわたってのリスクと機会を網羅的に評価しています。TCFD※2が定めるリスク項目に沿って、気候関連のリスクを「脱炭素経済への移行に伴うリスク」「気候変動の物理的影響がもたらすリスク」に分類し、検討を進めています。また、製品やサービスの提供を通じて気候変動の緩和に取り組むことを機会と位置づけ、取り組みを進めています。

※1 P.10 (CSRマネジメント推進体制) をご参照ください。

※2 2017年に金融システムの安定化を図る国際的組織である金融安定理事会 (FSB) によって設置された、気候関連財務情報開示タスクフォース

事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制

脱炭素社会の実現に貢献するため、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制に取り組んでいます。2018年度のシャープの温室効果ガス排出量は、M&Aによる子会社の取得により集計範囲が拡大したことなどにより、前年度比14.6%増の1,077千t-CO₂となりました。また、2012年度比のエネルギー消費原単位改善率は17%にとどまりました。



環境に配慮した製品・デバイスの開発

環境に配慮した製品を「グリーンプロダクト (GP)」と定め、7つのコンセプト※4に基づく開発・設計指針をまとめた「GPガイドライン」を全ての製品設計部門で運用しています。さらに、環境性能が特に優れた製品を「スーパーグリーンプロダクト (SGP)」として認定し開発を積極的に推進しています。

※4 省エネ・創エネ、省資源、リサイクル配慮、安全使用・処理、グリーンマテリアル・デバイスの使用、電池などの環境配慮、見える化

■2018年度SGP認定機種事例



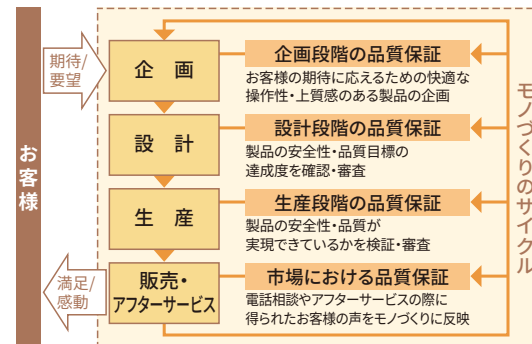
社会活動

品質・安全性の確保

シャープは、お客様の信頼獲得と満足向上のために、お客様のニーズと要望に応え、かつ安全性、品質、信頼性、環境に配慮したより良い製品、サービスを提供します。

品質保証体制

シャープは、製品の企画/設計/生産/販売・アフターサービスに関わる全ての部門に対して「お客様に保証すべき品質」を明らかにし、全員参加で品質の継続的改善に取り組んでいます。



人材育成

シャープでは、ビジネスを行う上での基本的な知識や専門性について「個人がいつでも、どこでも、“主体的に”学べる環境づくり」を行い、事業に精通したプロフェッショナル人材の育成を図っています。「強い個」を育てる人事・教育研修を継続的に実施することにより、「教え合い、学び合う風土づくり」を行い、人材の育成・強化を通じ「強い会社への変革」を目指しています。

